学校事務職員の視点から進める教育環境整備
～会計改善・学校運営参画・生徒参画を通して～

相馬市立向陽中学校
副主査　加藤　寛基

1　背景と目標

学校事務職員として教員や生徒のために、「学校の教育目標達成のための教育環境の整備」や、「安心・安全な学校環境を提供するための学校施設・設備の管理運用」を推進してきた。取り組みを進める中で、以下のように考え、目標を設定した。

【背景（課題）】

（１）　教員が行う事務書類作成や会計事務が大きな負担になっている。それらを減らすことができれば、生徒と向き合う時間をより多く確保でき、生徒のために持てる力を最大限活用できる。

（２）　学校事務職員の視点から、学校運営上の課題や改善について提案できれば、学校運営に積極的に参画することができる。

（３）　生徒目線での困りごとや要望を引き出すことができれば、学校環境改善の大きな力になる。

【目標】

（１）『会計実務の窓口一本化による教員負担軽減、会計改善』

事務職員で教員が持っている会計の実務を一手に引き受け、教員が生徒と向き合う時間を多く確保できる環境を提供すること。効率化を図り、一手に引き受けても運用可能な状態にすること。各会計を比較し、無駄な支出を減らすことによる予算の有効活用を行うこと。

（２）『部活動希望制移行に伴う、運営上の課題や解決に向けての提案』

これまでと大きく異なる環境になることから、主に会計における集金・支出のルールについて、教員と連携を取り、検討すること。

（３）『「生徒アンケート」を活用した教育環境整備』

生徒自身が自ら考え、要望する。それに対して、どのように対応したか生徒に発信することで、生徒が要望を出しやすい環境を作り、学校環境の改善につなげること。

２　協働・取組

（１）『会計実務の窓口一本化による教員負担軽減、会計改善』

学年会計等会計事務は、担当が実務のすべてを担当していることがほとんどである。担当する教員の経験年数や会計担当の有無によって、大きな負担となったり、会計事務についての知識がなく、処理不適切による不祥事につながったりすることもある。これらの課題解消のため、会計実務を一手に引き受けることにした。

各会計担当や主任と確認し、「予算書・決算書の作成」「購入伺の作成・支出支払い事務」「出納簿・学期末報告資料作成」を事務職員が行い、各決済は事務職員から学年会計担当を通して、主任に起案することにした。

新たに会計処理用のエクセルファイルを作成し、事務の効率化を図った。予算内訳一覧を作成することで、予算書や決算内訳一覧のデータが入力されたり、出納簿入力により決算内訳一覧や決算書のデータが入力されたりと、同じデータの繰り返しの入力や同じ計算を何度も行わないことで効率化を図った。

また、各会計で支出している模造紙やラミネートフィルムなどの消耗品について、市の消耗品予算で学年共通の消耗品として購入するなどして、学年会計のスリム化を図った。

（２）『部活動希望制移行に伴う、運営上の課題や解決に向けての提案』

市全体で部活動が希望制へ移行する方針を受け、現行会計の課題整理から着手した。検討にあたっては、管理職と方向性を共有し、各部顧問への聞き取りを行いながら、実務上の負担や課題を具体的に把握した。また、すでに希望制を導入している県北地区の中学校の会計運用について調査し、先行事例を参考にしながら本校の実情に即した仕組みづくりを進めた。

制度設計においては、「受益者負担」を原則としつつ、教員による現金取扱い業務を可能な限り削減することを重視した。登録費や大会参加料は事務職員が管理する会計から支出する仕組みに改め、集金を一元化することで、教員の負担軽減とリスク低減を図った。

さらに、配分根拠が不透明であった部費については、部員数に応じた配分を原則とし、過不足が生じる場合は根拠資料に基づいて予算請求を行うルールを整備した。

加えて、これらを整理した「部活動希望制に対応した会計ルールのモデル」を作成し、市内各校へ共有した。各校が制度移行期に円滑に対応できるよう、考え方・具体的な処理方法・留意点を明文化し、汎用性のある資料として提供した。

（３）『「生徒アンケート」を活用した教育環境整備』

生徒から要望を聞き出すための「こうなったらいいなアンケート」《以下「生徒アンケート」と表記》とそれに答える「生徒向け事務だより」の実践を行った。生徒アンケートは、初回はグーグルフォームを活用し全校一斉に行った。それ以降の要望集約のために事務室前に記入用紙と回収ボックスを設置し、いつでも要望を受け付ける体制を整えた。生徒から集約した要望は、校務運営委員会や生徒指導委員会で相談したり、部活や委員会担当と相談したり、用務員と協力して要望箇所の修繕を行うなどして対応した。生徒会と連携し、要望について生徒と協議する場や生徒会から教員に要望を行う話し合いに参加した。校内だけで対応が難しい件については、市に修繕要望や予算要望を行った。それらの対応について定期的に生徒向け事務だよりを発行し生徒に発信した。

また、昨年度までの取り組みである「保護者向け事務だより」と「教職員向け事務だより」も継続し、生徒向け事務だよりと保護者向け事務だよりは学校ホームページ《以下「ＨＰ」と表記 》に掲載し、いつでも情報を確認できる環境を整えた。

３　成果と課題

（１）『会計実務の窓口一本化による教員負担軽減、会計改善』

会計を引き受けたことにより、事務職員が担当する会計は 19 件となった。（内、教員から引き受けた件数は９件）件数が増えているが、もともと事務職員が持っていた会計においても今回作成したエクセルファイルを活用することで効率化を図ることができたため、全体でみると大きな負担増にはならなかった。大量の納品請求書を抱えないために、手元に届き次第、購入伺いを作成・起案し、すぐに支払いを行った。

予算書の作成時、各学年の予算書を比較することで、教材の金額の誤りや、不要・不足な項目について確認することができ、集金額のミスについて未然に防ぐことができた。

共通で使用する消耗品の置き場所を一か所にまとめた。各学年会計や生徒会費から支出されていた消耗品を事務が持っている市費消耗品費でまとめて支出することにより、会計の無駄な支出を抑えた。

エクセルファイルの初期設定（会計項目作成、予算額登録）の作業は、説明可能であるが少し複雑な作業が必要になる。マクロを活用し、一括で入力や設定ができるものにすることができれば、製作者自身でなくても利用できる、より持続可能なものになると考える。対応できるようにエクセルに関する知識を深めていきたい。

（２）『部活動希望制移行に伴う、運営上の課題や解決に向けての提案』

希望制移行に伴う不公平感への懸念に対し、一定の整理と方向性を示すことができた。部費配分の根拠を明確化したことで、保護者や生徒に対して説明可能な会計体制を構築できた。また、教員の現金取扱い機会が減少し、業務負担軽減と不祥事防止につながった。

作成した会計モデルを市内で共有することで、各校の制度設計の参考資料となり、実践の横展開につなげることができた。

一方で、参加人数の変動に伴う予算調整への柔軟な対応や、保護者への丁寧な周知と理解促進、市内各校の実情に応じた運用調整の継続的支援等が今後の課題である。

（３）『「生徒アンケート」を活用した教育環境整備』（各回数、件数は令和８年２月 18 日時点）

生徒アンケートの回答数は 340 件、その後の回収ボックスでの回答は 15 件となった。生徒への回答となる生徒向け事務だよりも 17 回発行することができた。発行回数を重ねるにつれ、回収ボックスだけでなく、直接声をかけて要望を届けてくれるなど、生徒が要望を出しやすい環境になってきていることを実感した。要望に対して何か対応をするということが生徒の興味を引き、生徒の要望を引き出すことにつながったと考える。保護者から声をかけていただくことも増え、保護者に向けての学校情報発信や生徒と保護者のコミュニケーションのきっかけにもなっていることを実感した。自分だけでは気付くことのできない要望について聞き出し、答えていくことで学校環境の改善につながった。

課題は寄せられた要望すべてを生徒向け事務だよりで回答できなかった点である。校務運営委員会や生徒指導委員会で協議し、意見をもらったが、生徒に向けての説明が難しく回答できなかった要望があった。学校運営に積極的に参画するなどして、自分自身の経験値を上げ、生徒が納得できるような回答をできる幅を増やしていきたい。

保護者向け事務だよりは４回発行、教職員向け事務だよりは 29 回発行、ＨＰ更新回数 22 回と、定期的な情報発信を行うことができた。

4　教訓

（1）『会計実務の窓口一本化による教員負担軽減、会計改善』

会計実務を一手に引き受けることで、教員の負担軽減だけでなく、事務職員の目線から改善点などを見つけることができた。今後も事務職員として責任をもって、会計事務に携わっていきたい。

（2）『部活動希望制移行に伴う、運営上の課題や解決に向けての提案』

制度変更期においては、「公平性」「透明性」「業務負担」「リスク管理」という複数の視点を踏まえた制度設計が不可欠であることを再認識した。また、自校での改善にとどまらず、モデルとして整理・共有することで、学校事務職員の専門性を組織的な価値へと高めることができることを学んだ。

学校全体、さらには市全体の教育環境を支える視点をもって会計設計を行うことが、学校経営参画の具体的な実践につながると考える。

（3）『「生徒アンケート」を活用した教育環境整備』

生徒や教職員がそれぞれ考えている、「学校を良くしていきたい」という思いをひとつにつなげることができれば、より大きな効果が得られることを実感した。今後も要望を聞き出し、校内環境整備や予算の有効活用を通して、教員や生徒の持てる力を最大限発揮できるような環境整備に努めていきたい。

※「生徒アンケート」を活用した教育環境整備』実践の様子

アンケート実施

事務室前アンケート回収箱

廊下に事務だよりの掲示

生徒との協議

生徒会からの提案

生徒会と教員の協議

保健委員会との連携

生徒用椅子破損個所の修繕

体育館屋根上のボール回収